

# メディアミニツアー Media mini tour

## 養浩館庭園(ようこうかんでいえん)

養浩館庭園は、かつて福井藩主松平家の別邸で、池を中心とした庭園をそなえる江戸時代中期(18世紀)を代表する名園の一つとして、国の名勝に指定されています。アメリカの庭園専門誌“Sukiya Living Magazine”(The Journal of Japanese Gardening=JOJG)の「2009年日本庭園ランキング」で「日本庭園第3位」に2年連続で選ばれました。当日は、その四季折々に様々な顔を見せる美しい庭園を眺めながら、日本の伝統文化の茶道を体験できます。また併せて、華道家元池坊の古典立花をご覧ください。



### 御座ノ間から西をみた景観



御座ノ間の前面には、池面(2,300㎡)が広がる。真正面には石造層塔が象徴的に建てられている。層塔は七重で、花崗岩で復原設置された。後方には、二峰のかなり長大な築山があったことが、「御泉水指図」から推定される。

### 園池西からみた主要建物群



池の東側に接して設けられた数寄座敷、御湯殿等。水面に浮か上がるように簡素な姿をみせる。御座ノ間を含む寄棟の建物の北半には「櫛形」の名の元となった花頭形の窓が連なり、東に突出する池をまたぎ御湯殿へ渡廊下が続く。

### 脇棚の螺鈿細工



### 御月見ノ間



東に突出して設けられた離座敷。東には昇月を見る月見台が、西には池に映える月を見る幅2間の大きな雲窓の出書院が配される。北面には幅1間の床と半間の脇棚が存在する。脇棚の袋戸には青貝入の螺鈿細工が施されている。

## 福井市立郷土歴史博物館

(ふくいしりつきょうどれきしはくぶつかん)

福井市立郷土歴史博物館は、福井市のシンボルとして、昭和28年(1953年)足羽山に開館。郷土福井に関する資料の収集に努め、福井藩、越前松平家に関する資料が充実しています。

平成16年(2004年)3月21日、越前松平家の別邸であった「養浩館庭園(旧御泉水屋敷)」隣りに移転新築オープン。当日は、主に、江戸時代(1603~1867)に福井をおさめていた越前松平家に伝わった資料をご覧ください(右に一部を紹介)。また、「歴史体験スペース」にて、江戸時代(1603~1867)をテーマにした羽織・袴などの衣装を着て写真を撮ることもできます。

### 着物

多くは肩あげと腰あげが施され、成長に合わせて長く着用できるように仕立てられています。振袖には子どもの体熱を逃すため、身八つ口(脇が開いた形状)が付いています。



萌黄地葵紋付笹雀模様幼児用振袖

### 武具

大人用の甲冑や刀剣をそのまま小さくしたように精巧に作られています。稚児用甲冑は初めて鎧を身に付け成長を祈る儀礼(鎧着切め)に使用されます。



金小札緋糸織二枚胴具足

## エネルギー大臣会合併催イベント「ふくいAPECフェア」

「エネルギー」「環境」「国際交流」をテーマにした、見て、聞いて、体験できる楽しいイベントです。福井の未来を担う子どもたちが、エネルギーや環境について考え、APECに参加する国や地域への理解を深めるための機会をつくれます。※フェアの様子は後日、福井市APECホームページ(<http://www.fukuicityapec.jp/>)にてオンデマンド配信いたします。

**場所** アオッサ、福井駅東口広場  
**日時** 6月19日(土) 9時30分~17時

